

子供も大好き 木のおもちゃ作り

ボランティア最前線

ボラセン大会の出品準備に忙しい工作室（6月14日）



優れた技術...木工グループ

木片で電車や動物を作る工作は子供たちに大人気。グループわのイベントでは、いつも順番待ちの列ができるほどです。木工の魅力とはなんだろう？ 6月10日、ボランティア報告会を控えて忙しい木工グループの工作室を訪ねてみました。80平方メートルほどのスペースに、各種機械やのこぎり、かな、板材、作りかけの作品が所狭しと並び、現役とOB10人ほどが、出品するプランターや額・本立て作りに大忙しです。ここは、カレッジの東側、園芸コースの農園の横にあり、少々機械音も迷惑になりません。



木工グループのボランティア活動は、年間を通して多岐にわたっています。大西勲（園10）さんによると、環境未来館や振興協会などと協力して実施する「夏休み宿題お助け隊」「わいわいストリート」「夏休み工作塾、工作教室」が大きな柱です。数百点から2000点の部品を用意し、子供たちと一緒に、巣箱・船・遊具などを作りますが、怪我をさせないよう細心の注意をはらって作業するため、昼食をとる間もないくらいです。にこにこ顔の子どもたち、親子の楽しそうな触れ合いの姿を見ると、疲れも忘れるそうです。

他団体からの要望も多く、網戸の補修を頼まれたり、バリアフリーグッズを製作したり、小物から家具までなんでもこなす技術集団です。環境に優しい木工品の人気は高く、幼児にも安全で、ぬくもりのある木馬・積み木・はめ絵などのオモチャは技術的にも優れ、目玉作品となっています。

木工グループのスタートは、阪神淡路大震災があった95年7月。KSCで被災者支援の動きがあった頃です。仮設住宅などの改善を目的に、玄関、風呂、階段などに手摺り、踏み台などを設置することから始めました。以後も木工好きが集まって活動を続け、OBたちもわの傘下で、最古参のクラブとして31人が活躍しています。

もくもくと、楽しげに...木工に取り憑かれたグループの作業場。「ぬくもりのある木材は、香りもすばらしいし、色々な形に変えて様々な物を作り出せる。自分の考案した作品が高い評価を得た時の感動もすばらしいですよ」。大西さんの語る、こんな魅力が、皆さんのやる気の原動力のようです。



（写真と文 広報・徳原尚世）